

革新的先端研究開発支援事業 ステップタイプ[®]（FORCE）のご紹介

AMED シーズ開発・研究基盤事業部
革新的先端研究開発課

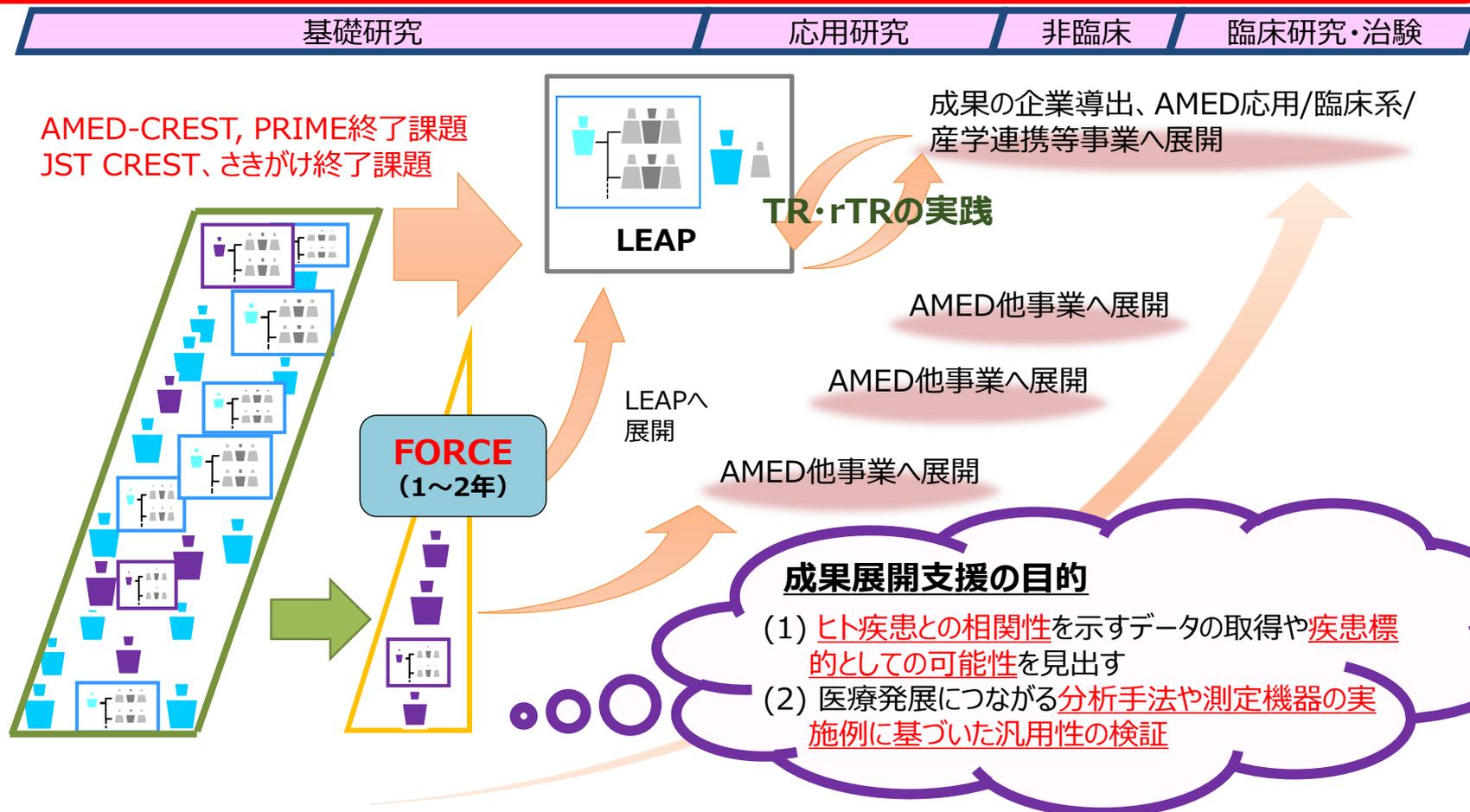
令和7年度
FORCE公募説明資料

ステップタイプ (FORCE) の概要

AMEDで行われたAMED-CRESTおよびPRIME、並びにJSTで行われたCRESTおよびさきがけの研究開発のうち、科学的あるいは国際的に優れた研究成果が得られたものについて、1~2年の追加支援により大きな「**成果展開**」が期待できる課題について、次の段階へ切れ目無くつなぐための制度。

FORCE: **F**rontier **O**utstanding **R**esearch for **C**linical **E**mpowerment

ヒト疾患サンプルでの実験データ不足や、創出された技術の汎用性を示すためのヒト疾患サンプルでのデータ不足により、LEAPまたはAMEDの応用/臨床系他事業での評価・採択が難しい課題に対する支援



FORCEの公募情報(令和7年度)



◎令和7年度の公募について

	分野等、公募研究開発課題名		研究開発費の規模 (間接経費を含まず)	研究開発 予定期間	採択 予定数
1	ヒト疾患との 相関性の検証	AMED-CREST 終了課題、	1課題あたり 2,000万円以下 (研究期間が1年間の場合)	最長2年 令和7年度 ～令和8年度	0～4課題 程度
2	分析技術の 汎用性の検証	PRIME終了課題、 JST CREST終了 課題またはさきが け終了課題	4,000万円以下 (研究期間が2年間の場合)		

	日程
公募開始	令和6年11月5日(火)
公募終了	令和6年12月10日(火)正午(厳守)
書面審査	令和6年12月中旬～令和7年1月下旬(予定)
ヒアリング	令和7年2月5日(水)(予定)
研究開始	令和7年4月1日(火)(予定)

※研究開発費の規模及び新規採択課題予定数等は、公募開始後の予算成立の状況等により変動
することがあります。

応募要件等(令和7年度公募)



- ・AMED で行われたAMED-CREST およびPRIME、並びにJSTで行われたCREST およびさきがけの研究開発課題のうち、令和6年度が終了年度となる課題もしくは終了時から5年以内の課題の研究開発代表者であること
- ・ヒト検体(iPS細胞を含む)使用のための倫理審査が公募申請時に承認されていること、もしくは倫理申請を行っていること。

※研究開発提案書の「1. 研究の背景・目的 ③研究実施の基盤及び準備状況」に承認番号または申請番号を記載ください。

その他(令和7年度公募)



- ・PRIME やさきがけ 終了課題でも分担研究者を置くことが可能です。
- ・ヒアリング審査の対象者は原則として研究開発代表者とします。なお、必要に応じて臨床系または技術系等の研究開発分担者 1 名の同席が可能です。

発表：研究開発代表者、質疑応答：研究開発代表者＋分担者1名

令和7年度FORCE公募要領:公募研究開発課題の概要(抜粋)



- ・採択決定後、速やかに研究開発に取り掛かることのできる様、倫理申請やヒト検体の入手等、申請時での十分な準備を行って下さい。
- ・ヒト検体から得られた結果を考察する上で、**臨床研究者と連携することを推奨します。**
- ・ヒト検体を用いて、飛躍的な研究開発の進展が期待できる計画をご提案ください。有効な治療法・診断法が無い、医療ニーズの高い疾患を対象とした挑戦的な研究計画も歓迎します。
- ・研究体制を良くご検討いただき、基礎研究から応用研究への飛躍を可能とし、他に例のない、医療応用を目指した提案を期待します。

一方で・・・

- ・既にヒト検体を用いてデータが十分に得られている研究テーマや医薬品等の開発フェーズへ進んでいる研究課題は、FORCEの対象になりません。
- ・ヒト検体で得られた十分に有効性が予測され得る予備的結果について、単に例数を増やして有意差を出す目的の計画は推奨しません。

※詳しくは、FORCEの令和7年度 公募ウェブページおよび公募要領 6～9ページをご参照ください。

https://www.amed.go.jp/koubo/16/02/1602B_00035.html

ヒト検体の利活用



AMED革新先端事業のウェブページにて下記の情報を掲載しております。ヒト検体ご利用にあたり、ご参照いただけますと幸いです。

ヒト由来の試料・情報の利活用に関する手引書

基礎研究者が、ヒト由来の試料・情報を用いた研究を開始する際にご参考いただく手引書を公開しています。また、革新的先端研究開発課ではAMED-CREST・PRIME採択者を対象として、ヒト倫理申請の支援活動を行っております。支援をご希望の方は作業フローもご参照ください。

- [マウスからヒトへの研究の発展を支える手引書](#) PDF
- [ヒト倫理申請支援における作業フロー](#) PDF

また、国内のバイオバンクに保管されている試料・情報の利用については、バイオバンク利活用ハンドブックもご参照ください。

- [バイオバンク利活用ハンドブック](#) PDF

<https://www.amed.go.jp/program/list/16/02/001.html>

上記、マウスからヒトへの研究の発展を支える手引書 

マウスからヒトへの研究の
発展を支える手引書

増井 徹、高田容子

国立研究開発法人日本医療研究開発機構
シニア開発・研究基礎事業部 革新的先端研究開発課

FORCEの運営体制



プログラムスーパーバイザー(PS)・プログラムオフィサー(PO)

PS	大島 悦男	キリンホールディングス株式会社	シニアフェロー
PO	小田 吉哉	東京大学大学院医学系研究科	特任教授
PO	河野 隆志	国立がん研究センター研究所	ゲノム生物学研究分野 研究分野長
PO	本橋 ほづみ	東北大学大学院医学系研究科	教授

- ・進捗報告会＋交流会 年2回
- ・必要に応じてサイトビジットの開催
- ・基礎と臨床の研究者の連携、チームワークを重視
- ・課題間連携を推奨
- ・研究期間終了後に事後評価

各年度の応募数、採択数



	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
応募件数	27	29	16	25	20	27	144
書面通過数	書面のみ	9	9	8	10	11	
採択数	5	5	5	4	4	4	27
採択率 (%)	19	17	31	16	20	15	19

※令和4年度公募から応募対象枠をCREST、さきがけに拡大。

FORCEの研究開発課題(令和5, 6年度採択分)



採択年度	氏名	所属	課題名	出身領域
R6	有本 博一	東北大学	神経変性疾患の新たな選択肢:AUTACsによるオートファジー活性化	PRIME プロテオスタシス
R6	石井 健	東京大学	生体ナノ粒子多次元解析による新規診断・治療効果評価法の開発	CREST 細胞外微粒子
R6	大谷 直子	大阪公立大学	腸内細菌叢由来因子による肝がん微小環境の形成メカニズムの解明と予後予測・予防・治療への応用	AMED-CREST 微生物叢
R6	中津 史	新潟大学	悪性リンパ腫における細胞内脂質輸送制御破綻の検証	PRIME 脂質
R5	小室 一成	東京大学	ヒト心不全における心筋DNA損傷の病的意義の解明とその制御	AMED-CREST メカノバイオ
R5	竹田 潔	大阪大学	ヒト腸管免疫・上皮バリアの機能制御機構の解析	AMED-CREST 微生物叢
R5	民谷 栄一	大阪大学	免疫1細胞機能計測チップデバイスの開発と抗腫瘍活性診断への応用	CREST 1細胞
R5	内藤 尚道	金沢大学	血管内皮幹細胞を標的とした虚血性疾患の革新的治療法の開発	PRIME 適応修復

ご応募をお待ちしております。

ご質問:kenkyuk-FORCE[AT]amed.go.jp までご連絡ください。
[AT]を@に変えてお願いします。

FORCEの令和7年度 公募ウェブページおよび公募要領
をご参照ください。

https://www.amed.go.jp/koubo/16/02/1602B_00035.html